



日時	2023年4月30日 15:00					試合形式	35分×3				
会場	さくらスタジアム					ピッチ状態	天然芝				
日本代表			1	1set	5	14	栃木SCユース				
			0	2set	3						
			0	3set	6						
警告・退場	3set	2set	1set	チーム合計			1set	2set	3set	警告・退場	
	0	4	2	6	シュート	41	12	12	17		
	9	9	7	25	GK	2	0	2	0		
	0	3	0	3	CK	16	7	5	4		
	0	0	0	0	直接FK	1	0	1	0		
	2	3	5	10	間接FK	0	0	0	0		
	2	3	5	10	(オフサイド)	0	0	0	0		
	0	0	0	0	PK	0	0	0	0		

【日本】

1 set



2 set



3 set



【栃木SCユース】

1 set



2 set



3 set



【得点経過】

1 s e t

- 6分[栃木 SC ユース]NO.27 が CK をニアで合わせ、ヘディングシュート。
13分[栃木 SC ユース]クロスボールを NO.27 が折り返し、NO.8 がヘディングシュート。
18分[日本]栃木VOからのパスを武田がブロック。ペナルティエリア内まで転がり、GKが処理しようとしたボールを梅村が奪い、シュート。
21分[栃木 SC ユース]グランダーのクロスボール NO.20 がペナルティエリア内でワンタッチシュート。
24分[栃木 SC ユース]NO.11 のスルーパスを NO.20 が中央抜け出しシュート。
34分[栃木 SC ユース]NO.31 が DF 背後に抜け出し、ペナルティエリア内で GK を引き付けパス。NO.28 がワンタッチシュート。

2 s e t

- 16分[栃木 SC ユース]CK の 2nd ボールを NO.29 が素早く反応し、ペナルティエリア内で中央にパス。NO.19 が合わせてシュート。
18分[栃木 SC ユース]CK のこぼれ球を NO.24 がシュート。
22分[栃木 SC ユース]クロスボールを NO.28 がワンタッチで合わせてシュート。

3 s e t

- 16分[栃木 SC ユース]NO.14 がスルーパスから中央を抜け出し、シュート。
18分[栃木 SC ユース]中央で NO.24 が DF 背後へ浮き球を配給。NO.14 が抜け出しシュート。
28分[栃木 SC ユース]NO.28 がペナルティエリア内で DF をかわし、シュート。
31分[栃木 SC ユース]NO.14 がペナルティエリア内混戦からシュート。
32分[栃木 SC ユース]NO.26 がペナルティエリア外からグランダークロスボールをワンタッチシュート。
34分[栃木 SC ユース]NO.26 がペナルティエリア内ニアゾーン走り込まれ、ワンタッチシュート。

【交代】

1 s e t

- 13分[日本] IN 梅村 ⇔ OUT 山田
23分[日本] IN 越智 ⇔ OUT 阿久津
28分[栃木 SC ユース] IN NO.28 ⇔ OUT NO.8

2 s e t

- 20分[日本] IN 犬塚 ⇔ OUT 奥田
32分[日本] IN 海野 ⇔ OUT 大野

3 s e t

- 1分[日本] IN 石綿 ⇔ OUT 高木
8分[日本] IN 阿久津 ⇔ OUT 佐藤
20分[栃木 SC ユース] IN NO.4 ⇔ OUT NO.19
20分[栃木 SC ユース] IN NO.28 ⇔ OUT NO.24

ゲームコンセプト

- ・個々の持っている技術、走力、強さ、メンタルを全て出し切る。
- ・チームでの良い守備

攻撃

- ①プレーの原則
 - ・突破→サポート→幅・深み→モビリティ→創造性
- ②個人戦術
 - ・**ボールを持っている時** →シュート、ドリブル、前を向かせるパス
 - ・**ボールを持っていない時** →マークを外す「チェック、プルアウェイ、ダイアゴナル」
サポート「ボール状況→背後、保持、緊急」
コンビネーション「ワンツー、オーバーラップ、3人目」

守備

- ①プレーの原則
 - ・プレス→遅らせる→コンパクト→コントロール→バランス
- ②個人戦術
 - ◆**ボールオフ**
 - ・ボールの移動中
 - ・マークの原則→ボールとマークの同一視
良いポジション[インターセプトor背後をとられない]
 - ◆**ボールオフ→オンへ**
 - ・チャレンジの優先順位(インターセプト、コントロール際、前を向かせない
※チャレンジ&カバー&スライド、プレスバック、サイドプレス)
- ③前線の守備、中盤の守備への移行

ゲーム内容

栃木SCユーストップチームとの対戦となり、相手は個々の能力も高く、攻守にわたり苦戦した。

栃木ユースは、ボール保持時に3-2-5の配置となり、各ラインで数的優位を作られてしまい、思うようにボールを奪うことができなかった。またボールを奪っても優先順位を意識し、的確にゴールを目指す場面が少なかった。しかし、守備では、前線からの守備・中盤での守備・自陣での守備とラインの設定を変え、意図的な守備をチームとして試みようとする姿も見受けられた。攻撃では、シュートチャンスは少なかったものの、ワンタッチ、ツータッチとテンポの良い攻撃からチャンスを作ることもあり、判断スピードをあげることで攻撃の兆しも見えてきていた。

失点シーンでは、FWを過度に意識してしまい、最終ラインを押し上げることができずに、簡単に中央を突破されてしまうことや、クロスボールの対応の際にボールウォッチャーになってしまうなど、個人の守備の原則を疎かにすると失点に繋がることを現わしてしまった。

怪我人も数名いる中、普段と違ったポジションをこなすなど戸惑いもあったと思うが、チームとしての意図的な守備など、局面においては、トレーニング成果が見られたゲームであった。